

中央製作所 トリム・コスト

IP回線と携帯電話の融合で
通信コストの大幅削減を実現

「トリム・コスト」は携帯電話から直接IP電話網への発信を可能にすることで大幅な通信コスト削減を実現する新しいソリューションだ。通信機ディーラーの新たな商家としても期待される。

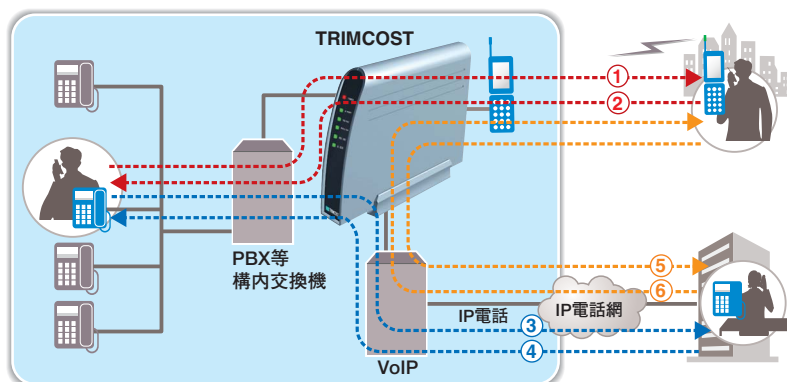
ビジネスマン、特にオフィスの外で仕事をする人が多い営業職やフィールドサービスにとって、携帯電話はもはや必需品といってよい。最近では、外勤社員全員に携帯電話を支給する会社も珍しくない。

とはいえ、携帯電話の通話料金は固定電話に比べまだまだかなり高い。携帯電話の導入で業務効率の向上が見込めるとしても、通信コストは可能な限り抑えたいというのが企業の本音だろう。

通信設備機器を手がける中央製作所(本社・宮城県亶理町)が来年1月に発売する「トリム・コスト」は、こうした企業の通信コスト削減のニーズに高いレベルで応えるソリューションだ。

トリム・コストは、携帯電話機をUSB/シリアルケーブルで本体に接続、本体とPBXやビジネスホン主装置のアナログ外線ポート間とをモジュラーケーブルで接続することで、①オフィスの内線電話から携帯電話へ、②携帯電話から内線電話への通話が携帯電話回線のみを使って行えるようになるもの。接続用携帯電話には、2G、3Gの大半の機種が利用できる

トリム・コストの利用形態



さらにトリム・コストはIP電話対応のアナログポート(FXSポート)を装備しており、これにIP電話回線を収容することで、③④内線電話とIP電話回線間の発着信、⑤⑥外出先の営業マンの携帯電話とIP電話回線間の発着信も可能になる(図参照)。

IP電話の料金で携帯電話を利用

トリム・コストの魅力は、文字通り通信コストを大幅に「刈り込む」ことができる点にある。

例えば、携帯電話事業者が提供する「音声定額プラン」に加入している場合、トリム・コストを導入することで、オフィスから携帯電話、携帯電話からオフィスへのいずれの通話も「無料」となる。さらに、携帯電話からトリム・コスト経由でIP電話加入者に発信すれば、むしろ通話料は「無料」、一般固定電話にも全国一律の市内通話並の料金で通話ができる。ユーザーの利用形態によっては劇的なコスト削減も可能となる。

ところで、トリム・コストの導入を考える際には1つ注意すべき点がある。

トリム・コストでは携帯電話から内線



営業部次長
嵯峨悦久氏



技術部主任
高橋裕之氏

やIP電話に発信する場合、接続された携帯電話機に着信した後、発信側の携帯電話からPB信号で電話番号を入力する形をとる。ところが、接続用の携帯電話機と発信側の携帯電話機が共に3G(W-CDMA)である場合は、ネットワーク仕様上PB信号が伝送されない。そこで中央製作所は、この問題に対し携帯電話のイヤホンマイクジャックに接続しPB信号を送出する「ダイヤラー」を新規開発し、ユーザーに提供するという。さらに携帯電話から相手先電話番号を全桁入力することなく、携帯電話の電話帳のインデックス番号(3桁:000~999)を入力させる短縮ダイヤル機能をトリム・コストに持たせている。その機能は携帯電話の電話帳を読み込んだSDカードをトリム・コストのSDカードスロットに挿入することで電話番号を共有させ、ユーザーのセカンダリーダイヤルの煩わしさを軽減させることも考えている。

中央製作所では1月の販売開始に向け、販売代理店の募集を行っている。業種は特定していないが、同社営業部の嵯峨悦久次長は「通信機ディーラーにとっても新たなビジネス展開のツールになるのではないかと見る。

開発を手がけた技術部の高橋裕之主任は「この製品の魅力は、携帯電話と内線、IP電話とを連携して、新しい利用法を開拓できることにある。」という。トリム・コストは企業の通信システムのあり方を大きく変える可能性も秘めているようだ。

お問い合わせ先

株式会社中央製作所

TEL : 050-3387-2171

URL : <http://www.trimcost.net>